

中野区シティプロモーション ナカノミライブプロジェクト



私たちは、明治大学国際日本学部の佐藤郁ゼミの学生です。

このたび、中野区との連携プロジェクトで、

近年、中野を訪れる数も増えている

外国人観光客の方向への施策を提案します。

私たちは「中野区らしさ」と「外国人観光客の心を動かすツボ」を研究し、

それらをかけ合わせて「外国人観光客の方向けに

まちを上げて取り組むべき4つのアイデアを提案します。

**日常では見過ごしがちな「中野区の魅力」や
若者目線で考える「中野区の未来」を是非ご覧ください！**

「外国人観光客の心を動かすツボ」とは？

新たなルールでタブー解消！

銭湯に入らない銭湯

「中野らしさ」と「インバウンドの心を掴むツボ」を調査したプロセス

中野らしさのディスカッション

- 多様性 = 無頓着
- 都会からの距離が近い
- 庶民文化



インバウンド観光事例調査

- 中野区国際交流協会(ANIC)
- 外国人と交流したい区民がいる & 集められる

中野のタウンウォッチング

- 銭湯
- ・ルールが多くとつきにくい (例) 写真・外観・水着NGなど
- でも体験したい!



インバウンドゲストハウスのヒアリング

- ・地域の結びつきが強い
- 外国人は疎外感を感じてしまう (本当は庶民文化に入り込みたい)
- 外国人向けの新しいルールを設けるべき!

ex. 神社

注目した中野らしさ

- ・どんな人でも許容する寛容さ
- 各自マイルールを持っている
- ・庶民文化

インバウンドの心を掴むツボ

- タブー感解消
- 外国人向け新ルール
- 銭湯に入らないという新ルールによって、多くのタブーが解消される



施策のポイント

タブー感解消

×

外国人向け新ルール



施策の概要

営業時間外に銭湯イベント開催

- 写真撮影
- 清掃体験
- 足湯体験
- 地元民との交流タイム
- SNS 拡散も

「入らない」から「できるイベントを！」

紹介するスポット

昭和浴場

- ↳ 中野区民に愛される銭湯
- ↳ エグジションも見られるかも?!
- ↳ 個人経営の銭湯のため、融通がきくかも?!



大人目線の「ここがすごい！」

今まで想像もしていなかった、大学生らしい独自性が光るアイデア!

※最終発表会の会場の声

若者目線でみる「中野区らしさ」とは？

「外国人観光客の心を動かすツボ」とは?

みんなでウォールペイント

「中野らしさ」と「インバウンドの心を掴むツボ」を調査したプロセス

中野らしいディスカッション

アットホーム感
 →色々な人が混在している中野だからこそ人それぞれの個性を尊重し、受け入れる温かさがある
 背伸びしないうちの中野
 →新宿ほど「東京のイメージとは異なる気軽さ」

中野のタウンウォッチング

インバウンドがウォールアートを背景に撮影
 →中野ならではの「手描き感」のあるアートがユニーク
 距離感の近いアート
 →親しみやすさを感じる

注目した中野らしさ

それぞれの個性を受容するアットホーム感
 完璧ではないからこそ生まれる親しみやすさ
 日常の延長のような居心地の良さ

インバウンド観光事例調査

イベントと観光
 →インバウンドも参加しやすいイベントの企画
地元民のガイド
 →地元の人々ぞ知る隠れスポットの発掘
 昼も夜も
 →昼でも夜でも楽しめる仕組みの確立

インバウンドゲストハウスのヒアリング

ショッピングはモノ消費が中心
 →中野でしかできない体験をしたい(コト消費)
 リピーターが多い中野
 →何度も行きたくなるスポットの発見
 インバウンドにとって居酒屋は入りづらい
 →入りやすく地元民と交流できる仕組み

インバウンドの心を掴むツボ

自国ではできない体験
 時間によって違う顔を見せる中野
 →リピーターを増やせる

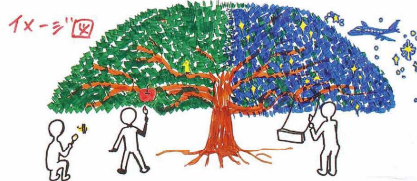
施策の概要

中野を回り、集めた絵の具で壁に絵を描いてもらい、個性を集約した一枚の壁画を新たな観光スポットにする

施策のポイント

- ① 地元の人との交流 + 新たな発見
 絵の具を地元の人しか知らない店舗に置いてもらい、参加者に自由に回って手に入れてもらう
- ② 手描きによるぬくもり
 完璧ではないが親しみのある飾らない壁画作り
- ③ 個性を受け入れる
 参加者にはペンスの絵に自由に描き足してもらう
- ④ 昼と夜のギャップ
 昼は普通の絵の具、夜はブラックライトで光る絵の具で「個性を表現」
- ⑤ リピーター

自分の足跡を残すことで、中野に愛着がわく



若者目線でみる「中野区らしさ」とは?

大人目線の「ここがすごい!」

「昔自分が描いた絵の今が気になる」という期待が残る良いアイデア!

※最終発表会の会場の声

「外国人観光客の心を動かすツボ」とは?

センパナイトピクニック

中野区らしさとインバウンドの心を掴むツボを調査したクオセマ
中野区らしさから得たヒント

- ① アットホーム: 国籍、年齢、性別関係なく誰もが受け入れられる空気感
 - ② ちょい都会(気取らないうち) 背中が伸びずTシャツが歩ける都会に近いが、都会すぎるわけでもない街。
- 企業、大学、ゼミ、サークルや学生が集まる中野の生活感ある他の場所にはない。
- ⇒ OnとOffがある街(ビジネスと遊ぶ)

インバウンド観光客の傾向

ナイトタイムエコノミー (夜間経済)
(阿寒観光局の高松まちづくり推進機構の事例より)

⇒ 夜の時間帯の有効活用

昼のドライブインへ行く観光客を夜の中野に引きよせる

タウンウォッチングから得たヒント

- ### ③ 点民文化性
- 例1 「わしゃ(寄り添いのお茶屋)」
↳ 日常的に手頃な昔ながらの「もの」を愛用する文化を称している。
- 例2 「セントラルパーク」
↳ 平日の昼間にシラシラシートを引いたピクニックする家族に溢れる。子供が昼間に親の手を離れて自由に走り回ることができている。

インバウンドゲストハウスのレビュー

- ・海外だと道端での飲酒は違法。しかし日本(中野)では夜にお酒を飲みながらのんびり過ごすことが新鮮!
- ・X(YouTube)で「過ごす= Chill」という近年の若者のトレンド
- ・中野は美術館に近いが、ビルが立ち並んでいるのは意外や、意外と住居地
- ・中野では、セントラルパークの人から人気スポット

注目した中野らしさ

- ① ② 背中が伸びず、過ごせるゆったりとした暮らし
- ③ ちょい都会な庶民文化性

インバウンドの心を掴むツボ

夜の「中野」で、ゆったりと Chill できるコンテンツ

施策のポイント

★インバウンドを動かすツボ★

庶民感 × 夜の Chill = 暮らすような Chill (イモイ)

施策の概要

- 【背景】中野への観光客の大半は、昼間にプロドブレイなどを目的にやってくる。夜まで滞在する観光客はあまり見かけない。
- 【経緯】国籍、年齢、性別を問わずみんなが楽しめるコンテンツ
⇒ 映画 ① 家族がチロ、チロ
- 【私の思い】セントラルパークを野外シネマとしてイベントを行うことで、夜まで観光客に滞在してもらう。中野が生きる人々の生活を見せる。
- 【内容】夕方から夜にかけてセントラルパーク映画を上映する。
・お弁当と「お食事交換券」のセットを販売。
・中野にゆかりのある飲食店などが出店する。

紹介するスポット

セントラルパーク (中野四季の森公園)

- 着眼点
- ・子供たちが親元を離れて自由に遊ぶ回れる(オフ)
 - ・住民だけでなく、サラリーマンや学生も集う(オン)
 - ・夜の時間帯にゆったり過ごす(Chill)

大人目線の「ここがすごい!」

ナイトタイムエコノミーに着目した点はさすが!!

※最終発表会の会場の声

若者目線でみる「中野区らしさ」とは?